

Y! mobile & Kohara RT

2015 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第4戦

SUGO SUPERBIKE 120miles ENDURANCE RACE

宮城県・スポーツランドSUGO(1周=3.7375km)

■大久保 光 ST600 予選:11番手 (タイム:1分42秒824) 決勝:5位

■伊藤 和輝 ST600 予選:13番手 (タイム:1分43秒096) 決勝:11位

■岡崎 静夏 J-GP3 予選:8番手 (タイム:1分47秒816) 決勝:10位

天候: 2015年 6月27日(土) 雨 コース: ウェット

6月28日(日) 曇り コース: ドライ～ウェット

観客動員数: 4,700人 (2日間合計)



39

大久保 光 Hikari Okubo
class : ST600
machine : Honda CBR600RR

40

伊藤 和輝 Kazuki Itoh
class : ST600
machine : Honda CBR600RR

22

岡崎 静夏 Shizuka Okazaki
class : J-GP3
machine : Honda NSF250R

苦しながら5位をつかんだ大久保。岡崎はいよいよ本物に!

第4戦の舞台となったのは唯一の東北ラウンドである宮城県・スポーツランドSUGO。1周約3.7kmのアップダウンがあり、テクニカルなサーキットとして知られている。ここで事前テストから気を吐いたのが岡崎だった。テスト最終日には1分35秒810をマークし、5番手と今までにない走りを見せていました。

レースウイークに入ても好調をキープ。金曜日のART走行では、1本目にマークした1分36秒454で総合10番手。雨となった公式予選でも快走を見せ自己最高位の8番手グリッドを確保。いよいよ目標にしているシングルフィニッシュが射程圏内に入ってきた。

一方、大久保は事前テストから、なかなかタイムを出すことができずマシンセットに苦戦していました。伊藤もドライでのセットを出せずにいたが、ウェットとなつた予選で挽回。ウェットコンディションということでタイヤ本数制限はなくなっていたが、セッションが30分と他のクラスより短いため、限られた中でマシンをセットアップしながらタイムアタックを行い大久保が11番手、伊藤が13番手となっていました。



決勝日も雨予報だったが朝は曇り空となりウォームアップ走行はハーフウェットからライン上が乾いていく状態だった。ここでも岡崎は10番手と安定してトップ10圏内につける。一方、ST600クラスのウォームアップ走行が始まるころには霧雨が降り始めていたが、ここで、いいセッティングが見つかったと言う伊藤が5番手と健闘していた。



ウェット宣言が出されていたが周回数は減算されず20周で争われたJ-GP3クラスの決勝レース。昨年、オープニングラップで転倒しているだけに慎重にスタートした岡崎は10番手でホームストレートに戻ってくる。しかし序盤はミスが続きポジションを15番手まで落としてしまう。その後、アクセレーションを丁寧にすることを心がけるとタイムも上がり前に追いつくと高杉選手と古市選手を15周目にパスし10番手に浮上。そのまま10位でゴールし、自己最高位を更新した。



ST600クラスも不安定な天候に振り回されることになった。サイティングラップが始まると雨が強く降ってくると、グリッド上でウェットタイヤに変えるライダーがほとんどだった。このサイティングラップで伊藤が転倒。以前はマシンも起こせなかったという伊藤だったがアドレナリンが出ていたのか、すぐに起こしてグリッドに着くとチームスタッフが痛んだマシンを応急処置し、無事にスタート

を切る。オープニングラップは伊藤が11番手、大久保が14番手でホームストレートを通過。雨は止んでおり、路面は乾く一方だった。その中をウェットタイヤで走るというタイヤに厳しいレースとなっていた。大久保はタイヤマネジメントを考えながらも着実にポジションを上げ5位でゴール。伊藤も耐えのレースを戦い抜き11位でゴール。2人とも、しっかりポイントを加算したのだった。



大久保 光 コメント

「今回は、スポーツランドSUGOというコースを攻略しきれませんでした。雨の予選は、うまくタイムを刻むことができませんでしたし、決勝ではレインタイヤでスタートするものの路面は乾いてしまう難しいコンディションの中、何とか5位でゴールできました。ライダー自身が苦労しているところ、チームが押し上げてくれたので感謝しています。アジアロードレース選手権SS600クラスにワイルドカードで出場することも決まりましたので、高橋選手や芳賀選手など強豪と一緒に走っていろいろ学びたいと思っています」

伊藤 和輝 コメント

「ドライでマシンが決まらなく苦しみました。雨では、少しくなり、決勝日朝のウォームアップ走行でいいフィーリングになってきました。それがサイティングラップのハイポイントコーナーで転倒。幸いすぐに再スタートできグリッドでマシンを修復してもらい、自分自身の判断でソフト目のタイヤにしてもらったのですが厳しいレースになりました。次回からは、もっと落ち着いてレースに臨めるようにしたいです」

岡崎 静夏 コメント

「雨でもドライでもいい状態だったので自信を持って決勝レースに臨みました。レース序盤は、気負いすぎてしまっていたのか同じミスを繰り返してしまい前に離されてしまったので、冷静になるように自分に言い聞かせ、アクセルをゆっくり開けるようにしました。そうするとペースも上がり、前に追い付いてきて高杉選手と古市選手をかわしてゴールすることができました。レース序盤で焦ってしまったことが反省点です。今回もチームを始め多くの方にお話になつたことを感謝します。次回こそシングルフィニッシュできるように努力します」

小原 齋 監督コメント

「岡崎はようやく本物になりましたね。今まで漠然としていたものが見えて来て、目標としていたことが目前に来ています。だからこそ、そこにある差を感じていると思いますし、その差をどう埋めていくかが課題です。大久保は今回、苦しましたが難しいコンディションを味方に付けてタイヤの使い方を考えながら走っていたと思います。伊藤もドタバタでしたが、何事も経験のシーズンなので、一戦一戦を糧に成長していく欲しいと思っています。Y!mobile & Kohara RTの3名の成長は楽しみです。ぜひ、ご期待ください」

Y! mobile & Kohara RT

〒336-0977 埼玉県さいたま市緑区上野田607-1
TEL.048-878-7020 FAX.048-878-5688